

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590600050		
法人名	社会福祉法人 御幸会		
事業所名	グループホームヒルトップくしがた(すずらんユニット)		
所在地	新潟県新発田市菅谷3345-1		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和6年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過により多くの制限があった。外出や面会など利用者様に影響があることで、施設内での日々の生活を穏やかに過ごすことができるように、関りを多くもてるようにしていったことで安心して暮らすことができていると考える。利用者様の喜びにつなげられるように職員一人ひとりが現状の支援を振り返り今後の支援方法に活かすことができるように頑張っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山間の見晴らしの良い高台中腹に位置して、敷地内には同法人の特別養護老人ホームが隣接している。グループホームの窓からは飯豊連峰を臨め、四季折々に風景の変化を楽しむことができる。

事業所の道路のすぐ下には集落があり、幹線道路沿いには有名な3大不動尊の一つがあり、常に参拝客が訪れている。コロナ禍前は地域のお祭りや不動尊のお祭りなど交流があったが、地域のお祭りは、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も再開がなく、交流を模索している。

法人の母体は市内の病院であり、特別養護老人ホームや介護老人保健施設等も運営している。グループホームでの看取りは行っておらず、その方の状態に適した医療と介護を選択できるよう支援し、安心して過ごしてもらえるよう取り組んでいる。

事業所の理念は、玄関に入って正面の壁に墨で親しみのある書体で「笑いの絶えない家庭づくり」と書かれている。毎日目にすることで、職員も心込めて利用者と触れあうようにしている。管理者は異動して数か月であるが、前任者の思いを踏襲しながら、職員と話しやすい雰囲気作りに努め、働きやすい環境整備に取り組んでいる。経験豊富な職員も多く、利用者の生活を一番に考えて支援の内容を工夫している。書道の指導ができる職員がおり、各ユニットで利用者と書道を楽しんでおり、その作品が壁に飾られている。ぬり絵や、職員と一緒に作成した季節感あふれる貼り絵もあり、生活の中での楽しみを支援している様子がうかがえた。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に貼り出し出勤時に職員が見えるようにしている。年度初めに職員で話し合い現状の理念を継続していく。	理念は玄関正面の壁に親しみやすいように墨で書いて掲示している。年度当初には職員全体で理念について確認や話し合いを行い、職員間で共有して実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過により地域の方と交流を行うことができていなかった。	コロナ禍で地域の行事が中止となり、5類に移行後も祭りなどの地域行事は再開されず、地域との交流は出来ていない。ただ、隣接の特別養護老人ホームが開催する夏祭りには利用者と一緒に参加して楽しむことができています。今後も地域の行事にはできるだけ参加していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過により、現状は広報誌を地域に回覧することで対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過により書面での開催とする。会議構成員の方へ訪問し意見や要望を頂戴している。	会議はコロナ禍となってから書面開催となっている。5類に移行後も感染を考慮して対面開催は実施されていない。その中でも管理者は地区の区長や民生委員宅へ出向いて内容の説明を行い、あわせて地区からの情報ももらっている。	新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが5類へ移行したことを受けて、感染対策に留意しながら、書面開催から対面開催へと企画して行くことを期待したい。会議を活用して具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解や協力を得て地域とつながることで利用者のサービス向上に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者との連絡、連携はあまりないが、何かある場合には相談させていただいている。	管理者は運営等において疑問があれば、市の担当者に連絡し、出向いてアドバイスをもらっている。メールで市主催の研修会の案内が届いた時には職員に配布している。生活保護受給の利用者もいるので、担当部署とは必要時に出向いたり電話等で相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて研修を行うことで利用者様に対し尊厳をもって支援している。散歩など施設の周りに出たり、施錠を行わずに自由に過ごしていただけるよう努めている。	事業所内に「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して定期的に会議を開催している。研修会は5月、6月に実施している。マニュアルも整備されている。玄関の施錠は朝6時から夜8時までは行わずに利用者の自由な暮らしを支援している。センサーは、排泄回数 of 動作確認のため1名の利用者を使用している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための勉強会を行い、普段から意識して支援できるように努めている。言葉等での行動制限を行わないように職員間での注意喚起に努めている。	委員会で虐待防止に向けた取り組みを実施している。法人として年1回職員のストレスチェックを実施しており、フィードバック体制もできている。管理者が資料等を作り、事例検討を含めた研修を行っている。普段から話しやすい雰囲気作りに配慮し、職員間でもお互いに注意しあう関係ができています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会を設け必要性を話し合い活用できるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に十分な時間をとり説明をしている。不安や疑問点などには具体的に丁寧に説明を行い、理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や電話で連絡した際にご本人の状況をお伝えしている。その際にも要望や意見を伺い活用している。	家族へは定期的に電話をしたり、受診時の結果等を伝えている。以前発行していた広報紙について、家族から「写真入りなので様子がわかりやすい」と意見が寄せられ、来月から広報紙の発行を再開できるように検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の話し合いや申し送り等で意見をだし、必要に応じて共有し運営に反映している。	ユニット会議や毎日の申し送り等を活用して職員からの要望や意見を聞き取っている。職員から、毎日の利用者の過ごし方について、職員のプログラムを優先するのではなく、一人ひとりの利用者が自由に暮らすことを支援するために業務の見直しを検討課題に挙げて、改善に向けて取り組み始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠実績や職位、経験等に基づいて給与水準や昇給を決定している。時間外での労働はほとんどみられておらず、有給休暇も取得できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会を行い、研鑽に努めている。外部での研修の案内もきており職員に周知するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過により積極的に交流はしていないが、事前面談等で訪問した際に交流をし、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等で生活状況を把握し、ご本人不安や思い、希望を傾聴し信頼関係を築いたうえで安心できるように受け入れすることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望等に耳を傾け、話し合いなどを通じてお互いに信頼関係を築くことに努めている。過去にあった相談事も参考にし説明するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いなど状況を十分に把握し、必要な支援を行うことができるように努めている。他の事業所のサービスが必要と思われるケースにおいて、法人内でのサービス提供事業所があることにより案内をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業などご本人のできることを職員と共にを行い、コミュニケーションを図りながらすることご利用者の役割となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対面での面会はまだ行うことができていないが、窓越しで面会したり電話で話をしたりすることが増えてきている。その際に状況をお伝えしたり要望を伺うよう努めている。	感染予防のため、法人として面会や外出をまだ許可しておらず、窓越しでの面会で対応している。面会時には、窓越しでは会話が聞き取りにくいから、電話を用いてゆっくり話ができるように工夫している。 家族に電話をしたいという利用者の希望があれば、事務所から電話をかけて話をしてもらっている。年賀状や手紙を出すことなども支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の制限があり、なじみの場所に訪れることは難しい状況だが年賀状などの手紙や電話で話したり等で関係性を継続している。	近くの床屋には定期的に職員が同行して出掛けることが出来ている。コロナ禍前は友人が面会に来てくれることもあったが、5類に移行後も、法人としては面会制限を設けている。家族の動向による受診時は帰りにドライブなどをして、気分転換を図ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中でご利用者の関係性を把握し、考慮した上で職員が仲介しコミュニケーションを図っている。ご利用者同士でも配慮を行ってくださる方もおり支えあいに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に併設の特養に入居された方が面会されたのちにGHへ寄ることもあったが、面会に制限があり難しい状況である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期面接の段階に限らず入所後の普段の生活の中で発せられた言動などから汲み取り記録に残したうえで情報の共有を行い、計画に反映できるよう支援している。	普段の会話の中から言葉を拾い、本人が発した通りに記録して職員間で共有している。自分の気持ちや思いを言葉で伝えられない利用者に対しては、表情やリアクションから把握するように努めている。職員間で記録等を振り返り検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や他の事業所からの情報提供にて把握するよう努めている。入所後もご家族やご本人から過去の話を探ねたり情報収集に努めている。	入居前には、現在利用中のサービス事業者から情報を収集し、本人や家族からもこれまでの生活状況や生活習慣について聴き取りを行っている。把握した情報は、「センター方式」のアセスメントシートに記載して職員間で共有・周知できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でその時々の様子など記録に残し申し送り等で職員同士で共有し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意向を伺い、定期的なモニタリングなどからその方に合った計画を職員からも意見をもらい作成している。	支援内容は毎日評価し、1か月ごとに担当者がまとめて、3か月ごとにモニタリング、6か月ごとにケアプランの見直しを実施している。「センター方式」のアセスメントを取り入れ職員で取り組んでいる。コロナ禍前はサービス担当者会議に家族にも来てもらっていたが、コロナ禍以後は、来訪時や電話等で意向を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプラン実施状況表の記録は毎日行っている。日々の様子や実践結果などを把握し記録をもとに介護計画の見直しや評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院への通院介助を施設側で対応することでご家族の負担が軽減されている。職員の勤務体制によりその時々ニーズに合わせて柔軟に対応できる努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの過去の話を聞いたり畑で花の干渉や野菜作りをしたりなどご自分のできることを活かしながら暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に以前のかかりつけ医より事業所協力医へ切り替えを行う方がほとんどであり、2週間毎に受診を職員で対応している。入居後も以前通われていた医院へ通うこともあり、ご利用者やご家族の希望に即した医療の提供に努めている。	入居前のかかりつけ医を継続する時には、受診の付き添いを家族に依頼している。入居後に協力医への切り替えを行う利用者がほとんどであり、2週間ごとの定期受診は職員で対応している。協力医とは、いつでもファックスや電話等で状態報告し相談できる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないものの、定期受診や日常で変化があった際に協力医に報告し支持を仰ぎ、受診できるよう支援している。その時の状態や結果をご家族へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には回復状況など病院やご家族と情報共有に努め、退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に事業所のできる最大限のケアを説明し、重度化した際には協力医との連携及びご家族への十分に話し合いをするよう努めている。看取り介護を行わないことを説明し、特養への転居についても説明を行っている。	入居にあたり、事業所のできるケアについて丁寧に説明をしている。看取りは行わない方針である。状態変化時は、協力医との連携のもと家族に説明を行い、法人内の病院や特別養護老人ホーム、老人保健施設等へ病態に応じて適切に移行できるように支援している。移行に当たっては、本人・家族の不安を軽減できるよう意向を確認しながら対応している。	看取り等の指針がまだ整備されていない。早急に整備するとともに、職員間で方針を共有し、周知されることを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の個々の状況を把握し、急変や事故発生時の対応等勉強会を行い、協力医との連携をスムーズに行えるよう事例を用いたケース検討を行っている。	事故緊急時のマニュアル、利用者の緊急連絡先、かかりつけ医の一覧表、訪問看護ステーションの連絡先があり職員に周知されている。感染対策としては、ゾーニング、PPE着脱のシミュレーション研修を実施している。コロナ禍前までは消防署主催のAED等の救急法の講習会にも参加していたが、現在は法人・事業所内においてAED使用方法の訓練を行っている。	事故や急変時の初期対応の実践力を身に付けるため、継続した研修の機会を作ることが望まれる。各種マニュアルの確認・見直しに加えて、隣接の特別養護老人ホームの看護師と連携し、誤嚥や骨折等への初動対応の実践的な研修と、感染症・食中毒等に関する研修を行うことが望まれる。また、参加できなかった職員もいることから、今後は全職員が研修参加できるような体制が整うことを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	有事の際の協力を区長様に依頼している。総合的な防災訓練を行い、全職員が対応できるよう議事録等で把握できるよう努めている。防災器具等についても定期的に点検している。	火災想定で年2回、総合防災訓練を実施している。地域での防災訓練等はコロナ禍以降できていない。隣接の特別養護老人ホームとの協力体制は築いている。備蓄は、ストーブやおむつ類等はホームに備えてあるが、他は隣接の特別養護老人ホームに保管されている。BCP(事業継続計画)の作成は検討中である。	今後は、火災だけでなく、地震等様々な災害を想定した防災訓練を企画・実施することを検討しているので、それにあわせて、各種マニュアルを確認し見直しすることを期待したい。また備蓄については、一部は事業所にあるが、全体に必要な備蓄のリストを作成して、災害時にわかりやすく利用できるような工夫することが望まれる。BCPも検討中であるが、早急に整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者に応じた言葉遣いを心掛けている。接遇にも気を付けフランクすぎず丁寧すぎず失礼のない言葉遣いを行うことができるよう見極めている。	居室、トイレのドアは閉めてプライバシー保護に努めている。特にトイレに入っているときは、大きい声で声かけをしないなど丁寧に実践している。また利用者個々のペースで心地よく過ごせるように支援している。記録のファイルはカギのかかるクローゼットに保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご自身の希望を自ら話すことができるよう配慮している。いくつかの選択肢の中から選んでもらったり、尋ねるような声掛けを行い働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	したいことしたくないことを尋ねるような声掛けを行っている。その時にしたくなくてもその後にはすることもあり、その方のペースに合ったタイミングで声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	多くの方がご自身で衣類等を選んでいるが、難しい方は入浴前に一緒に選ぶよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者個々の好みに合ったものを提供したり、調理や盛り付け後片付け等一緒に行うことで食事を楽しむことができるよう支援している。	献立は、隣接の特別養護老人ホームの管理栄養士が立てている。食材は調理前の状態にして、隣接の厨房から3食とも運ばれてくる。煮る、炒める、味つけは各ユニットで行っている。調味料等は厨房へ発注して配達をしてもらっている。献立には、選択メニューを取り入れたり、季節ごとの行事に合わせて楽しんでもらえるように工夫している。2月は恵方巻を出したり、クリスマスにはおやつにケーキを用意して好みのケーキを選んで楽しんでもらった。盛り付け、食器洗い、食器を拭くなど、できる範囲で利用者が食事作りに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁食など食事形態を個々の利用者に応じた食事の提供に努めている。水分摂取が少ない方などは少しずつこまめに行うなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの際に汚れていないかなど確認を行い、洗浄液を使うなど工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿や汚染があった際には記録に残している。そのことでパターンの把握につながっており、声掛けのタイミングの設定に活かしている。	できるだけトイレでの排泄を支援しているが、おむつ対応の方や夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。ちょっとした仕草やそわそわした時を見逃さずに声掛けして、排泄につなげるようにしている。個々の排泄状況をチェックして、排便コントロールなどにも留意するなど自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ご利用者の排便状況を職員間で把握し便秘気味の際には水分摂取量の見直しや運動などで自然排便ができるよう努めている。下剤が必要な方には下剤でのコントロールを行い、その方の排泄パターンに沿って汚染しないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のそれぞれ希望する時間を伺い、希望にて入浴している。熱めのお風呂が好きの方や長湯が好きなどその方に合わせて順番を調整するよう支援している。	入浴は週2回を原則としながら、希望があれば週3回など対応している。入浴の順番なども臨機応変に対応している。入浴剤や冬の季節には職員の家でとれたユズを持参してユズ湯を楽しんでいる。入浴時は1対1でゆっくり入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方はご自身で居室に行かれている。夜間の安眠に影響がでない範囲で声掛けを行うよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で利用者の変化を共有し主治医に報告している。その際に新しく処方された薬の副作用や用法を受診対応した職員より周知している。服用後の状況についても追跡をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でできることを工夫し支援している。食器洗いや食器拭き洗濯物たたみなど率先して行ってくださる方もおり気分転換になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の生活の中で天候を見て、ごみ捨てなど外にでる機会を設けている。ご家族と面会は制限はまだあるが、窓越しなどで顔を合わせお手紙など交流を深めている。	天気の良い時はグループホーム周辺の散歩や、テラスで過ごすなど外気に触れる機会を設けている。ドライブ等での外出は、コロナ禍以降自粛を継続しており、実施できていないが、今後は少人数でのドライブ等で外出できるように計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をご自身で管理している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり希望は多くないが、電話を希望する方には事務所の電話で会話をしたり、面会時に手紙をいただき返事をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変更したり、書道レクを行った際に作品を展示している。塗り絵など余暇活動で作成したものを貼り出し居心地のよい環境で過ごせるよう工夫している。	ぬり絵や書道を楽しみ、それぞれの作品を壁に掲示している。また職員と一緒に季節の貼り絵を作成するなどして飾っている。食堂のフロアには畳のスペースがあり、大きいテレビやソファや椅子が置かれて、うち履きを脱がずにそのまま利用できるようにしている。利用者が思い思いにゆったり過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでテレビを見たりテーブル席にて余暇活動をして過ごしたりする方とご自身のペースで過ごしている。居室にいかれ過ごす方もおり思い思いにすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の居室に家族の写真や誕生日にいただいた寄せ書き等を飾り居心地よく過ごしている。居室に最低限のものしか持たない方もいるが他の方と交流することが楽しみの方もおり日々の生活の中で交流する場を設けることをここをがけている。	ベッドとダンス以外は、普段使い慣れたものが自宅から持ち込まれている。テーブルや椅子、テレビなど、自宅とのギャップがないように設置している。家族の写真や自宅で使っていたものを飾ったり、落ち着いて居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室がわからない方が増えてきている。居室やトイレなど表記することでわかるようになり、迷うことが少なくなっている。その方のできることをきちんと把握し、状況に合った声の掛け方でご自身で行うことができるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				